

基本計画(検討案)に対する市民等の皆様からのご意見等と市の考え方 (1団体・19人から82件)

基本政策	分野	頁	パブリックコメントの内容	担当課	市の考え方
I	健康づくり ・ 地域医療	2	阿南市ウェルネス宣言を先駆けて行ってみてはいかがでしょうか。ウェルネスとは健康のほかに「生き生きと暮らす状態」を指す意味もあり、身体、感情、社会的、精神、知性、職業、環境ごとに評価できる指標でもあります。「ヘルス」とは、病気じゃない状態を指すように狭義の健康を指します。 計画が進むにつれて実現可能な地域となる短期目標や指標は無いでしょうか。数値目標のほかに具体的な行動目標を定めてはいかがでしょうか。	保健センター	健康増進法に基づき、平成19年度に阿南市健康増進計画「健康阿南21」を策定し、市民の方々の健康増進を推進してきました。現在は、平成30年度に「健康阿南21（第2次）」を策定し、10年間を計画実施期間として「笑顔・健康・活力あふれる健やかでこころ豊かなまち阿南」の実現にむけて市民の方々の健康増進に取り組んでいます。「健康阿南21（第2次）」では行動目標や数値目標を定めており、今後目標に対してどのように取り組んできたかについて中間評価、最終評価を行う予定です。
I	健康づくり ・ 地域医療	3	産婦人科の誘致 【現状と課題】 ・阿南市には産婦人科が2件しかない。 （木下産婦人科・阿南医療センター） ・阿南市民のみならず、県南住民（特に女性）にとっては深刻な問題。助成金制度を設けるなどして、産婦人科を誘致して欲しいです。 更には晩婚化や少子化対策として、不妊治療などを行える婦人科が阿南市（県南）にも必要だと考えます。安心して出産できる環境づくりをお願いします。	保健センター	産科、産婦人科医師が不足する状況の中、産婦人科の誘致は困難であると考えますが、阿南市から阿南医療センターに周産期医療や救急医療の充実、医師確保のための事業支援や協力要請を行い、市民の方々が安心して医療を受けられる体制づくりをすすめています。 また、不妊治療を行える医療機関は、国の要件を満たした医療機関であり、現在徳島県内で不妊治療を行える県の指定医療機関は徳島市内の3か所のみです。不妊治療については県や市で治療費の助成や要件緩和を行い、治療を受けやすい環境づくりを進めています。
I	子ども・子育て 支援	6	基本目標1「子育て家族への経済的支援では負担が大きいと感じる世帯」の目標値を0%に設定するべきである。	こども課	就学前児童については保育料無償化により、経済的負担が大きいと感じる世帯は一定程度の減少は推測されるが、保育料以外にも負担を感じておられる世帯もあると考えているため、0%の目標設定は難しいと考えています。
I	子ども・子育て 支援	7	基本目標4「子どもたちへの食育の推進」では地元食材の使用率を地場産業の育成と子供の地域愛のため100%に設定するべきである。	学校給食課	学校給食において、子どもたちの食への関心を高めるために地元食材を活用していますが、食材には野菜のように使用時期によって生産地が異なるものや、地元だけでは生産量が少ない食材があり、必要な数量を安定的に確保することが難しいといった現状です。
I	健康づくり ・ 地域医療 子ども ・ 子育て支援	3 7	当方は七見町で米、苺、ブルーベリーを栽培しています。 また、地域の有志で有機栽培移行しようと団体を立ち上げています。そこでは、竹資源を有機栽培に活用することで品質を向上することができても、販売先が地域外に流通している現状です。 教育で食育とあり学校給食で地域の食材を扱う計画があるのであれば、千葉県のいすみ市を例にとると市が有機米を生産者から直接買い取っています。慣行農法米との差額を税で補填することで、安心で安全な食育と第一次産業の担い手育成にも大きく役立つ税金の使途と考えられます。 さらに、保健でも病気になる体づくりを支える視点から、食は極めて重要とされています。食は食材が重要なのです。玄米で食べられるお米を推奨することで、ウェルネスタウン阿南の実現。子育てするなら阿南、農業するなら阿南、暮らすなら阿南というイメージ戦略にもつながります。 各ステージの産業が参入できない計画では、満足度も低く人口増加も期待できにくいと考えます。 極端な言い方をすれば、病気になる街づくりの実践が移住や子育ての環境づくりに直結するとも考えられます。 予算も縦割りではなく、横断的に活用することで作用点が増え、効果が期待できるし地域で循環することが容易に想像できるのではないのでしょうか。 生産者、教育、保健、がリンクすることで広がる、笑顔があふれる阿南！ 現計画では想像が難しく、達成できるのか不安です。	学校給食課 保健センター	【学校給食課】 本市の学校給食では米飯の献立は週4回実施しており、安定的に必要な数量を確保するため、阿南市産と指定した上で入札して購入しています。 阿南市産のお米を学校給食に活用することで、子どもたちの食への関心を高めるとともに、本市の一次産業の一端を担っていると考えています。 今回いただいた御意見を参考にさせていただき、今後も児童生徒の食育の推進に努めてまいります。 【保健センター】 阿南市では、阿南市健康増進計画健康阿南21や阿南市食育推進計画を阿南市内の各種団体の代表の方々をはじめとする阿南市健康づくり推進協議会のご意見、ご協力をいただきながら策定し、いろいろな分野での市民の方々の健康増進を推進しています。 保健分野だけでなく、他の分野、関係機関と連携しながら健康阿南21の基本理念である「笑顔・健康・活力あふれる健やかでこころ豊かなまち阿南」の実現に向けて取り組んでまいります。

I IV	健康づくり ・地域医療 商業 観光 交流	2 ・ 47 ・ 49 ・ 53	新型コロナウイルス感染症の拡大は、私たちの暮らしや、医療・教育・産業・経済活動等々の社会全体に様々な影響がもたらされています。また今後、新たな感染症の発症により、同じような状況なることも考えられます。 新型コロナウイルス感染症の拡大による影響は、今回の基本計画（案）の基本政策Ⅰ～Ⅵの全てに、なんらかの関係があるものと思われます。それなのに、 新型コロナウイルス感染症に関する取組施策の記述が、全くありません。ウィズコロナ・アフターコロナ時代や、新たな感染症の発症を見据えた、取組施策が必要だ と思います。	保健センター 商工観光 労政課 ふるさと 未来課	【保健センター】 新型コロナウイルス感染症の対応については基本計画の〈現状と課題〉及び〈基本的な方向性〉について追記し、国の新型コロナウイルス対応の動向にあわせて県や関係機関等と連携し、発症予防対策、感染症対策の推進に取り組んでいきます。 【反映する】 【商工観光労政課】 【観光（P49）】〈基本的な方向性〉に下線部を追記 室戸阿南海岸国定公園等の恵まれた自然や歴史、文化、国史跡を中心とした文化財を生かしながら、体験・体感型観光プログラムや観光ルートを確立するとともに、安全・安心で快適な「新しい旅行スタイル」に沿った観光需要に応える受入れ環境の整備を促進し、広域的な連携と「光のまち阿南」「野球のまち阿南」「SUPタウン阿南」「スポーツツーリズム」をキーワードに、本市の地域資源とマッチングした新たな観光開発を促進します。
I	子ども ・ 子育て支援	7	市内在住の2児の母です。 元々食に関心があったのですが、子供が産まれてから、より安心安全な食について調べるようになりました。 調べていく内に日本は海外に比べ農薬の基準が緩く、いちご等は海外に輸出できない程の農薬を撒いていることも分かりました。 年々、農薬の基準を緩和している理由は食物に農薬の耐性ができ、今までの農薬の量では効かなくなるのです。 さらにF1種と呼ばれる野菜の栄養素も従来の1/3～1/5少ないと言われており、遺伝子組み換えについては1/400という話です。なぜ栄養素が減っているかというF1種の産地を見ると外国名が書かれており日本の土地に合わず為に農薬や化学肥料が多く必要になってくる。その為に生きた土壌を支える微生物が損なわれているからです。 子供のアレルギーや発達障害もなぜ増えているかを考えると、やはり食が関係していると思います。 韓国では殆どの小中高で学校給食が有機の食材で提供されています。 オルゴク小学校は全校生徒が500人中アレルギーの子供は10～15人だそうです。日本では同規模の学校で40～50人はいます。 以上のことから子供たちの学校給食を安心安全な食材へと変えていけないでしょうか？地元で無農薬有機栽培した安心安全な食材を地産地消することで地域の活性化やお金も地元に戻ってくるのではないのでしょうか。 安いからといって薬品づけの食材を輸入し食べることが子供たちにとって本当に安心安全なことなのか疑問です。 種苗法改定自家増殖（自家採種）禁止法案が可決された今、徳島の従来種を市の条例で守り、農家さんが安心して無農薬有機の野菜を育て、子供たちに安全な給食が提供できる様に心から祈っています。 よろしくお願いします。	学校給食課	学校給食で使用する食材は、安心安全な食材を提供するため、生鮮野菜は農林規格等の規格を指定をした上で入札して購入しています。 地元で無農薬有機栽培した食材を活用するためには、必要な食材の数量を確保していただくとともに、決められた納品時間に各給食センターへ納品していただく等の課題を解決することが大切だと考えています。
II	防災・消防	17	基本目標1 南海トラフ巨大地震などの大規模災害に対する防災対策の推進では様々な推進や支援を記載しているが、復興に一番必要な建設作業員の確保が記載されていない。現状のままでは津波や那賀川氾濫の大災害を受けた場合、阿南市は何十年も元の状態に戻れない。例えば被災時に失業が予測される市民（会社員等）に復興作業員としての訓練と登録を行い、予備役の復興作業員を育成し被災時にはその復興作業員により一気に復興させるなどの画期的な事前防災のプログラムが必要である。その場合復興作業が仕事となり被災者も収入が得る事が出来て休業補償や生活支援の必要がなくなり経済的にも有効である。	危機管理課	防災・消防の基本目標2の復旧・復興対応の事前準備の取組として、事前復興ロードマップを策定することを記載しております。 ロードマップでは、「復興へ向けた条件整備」として、被災後に実施すべき事項や手順等を取りまとめるとともに、事前に取り組んでおくべき事項を定めます。 大規模災害時において、一日も早い復旧・復興には、行政のみならず、地域住民、民間企業や団体、ボランティアの方々の支援協力が欠かせません。 ロードマップには、外部支援者との連携体制の構築や被災前からの継続的な人材育成についても検討していきたいと考えています。

II	消防・防災	17	<p>災害に強い持続可能な町 山川海と自然豊かな町であるが災害発生の原因ともなる、大規模災害が発生すれば町は崩壊し市民は路頭に迷う、いち早く復旧復興するためには地籍調査が完了していなければならぬ。一日も早く100%完了する必要がある。</p>	農地整備課	大規模災害からの迅速な被災者の生活再建には、復興計画等を早期に策定する必要があり、初動体制が可能となるよう復興体制の検討を進めます。その中で事前の地籍調査の有用性は十分認識しますが、全体的な実施には長期的に多額の費用を要することや実施体制の整備を行う必要があることから難しいと考えます。
II	防災・消防	17	<p>地球温暖化によりも、南海地震よりも、那賀川の氾濫が早く起こると予測されている。那賀川は、流域面積に対する川幅が全国平均の一級河川の約半分で線状降雨帯による大雨が降ると確実に越流破堤すると専門家は判断している。破堤することが予測されるのに無視することは大きな問題で、総合計画に引き提等の将来計画もしくは調査の推進の記載が必衰である。また事前復興についての計画が総合計画にないのはお粗末である。</p>	特定事業推進課	近年、頻発する洪水の激化や将来の気候変動の状況を踏まえ、国及び県は令和元年度に新たに治水目標を見直すなど、那賀川水系河川整備計画の変更を行いました。この中で、上流域の長安口ダムや小見野々ダムのダム再生や、下流域における無堤地区の解消や洪水疎通能力を強化する河道掘削、河道域の狭い箇所での引き堤等、今後の那賀川における整備計画が記載されています。現在、国は加茂地区の築堤事業を進めているほか、県においては、十八女地区の築堤事業に着手するなど、計画的に河川整備を実施しています。なお、将来計画等については、国・県の事業であることから、市の総合計画には反映していません。また、事前復興等の計画については、二つ前の危機管理課が総合計画の中に反映させています。
II	防災・消防	18	<p>福井川の氾濫などに対応した防災拠点の整備。旧ゴミ焼却場跡を有効活用するため、避難所兼物産店を新設。</p>	危機管理課	<p>防災・消防の基本目標1の防災意識の向上及び確実な避難対策の整備に関する取組として、2024年に指定避難所を140箇所に拡充することを目標値として設定しています。</p> <p>「旧ゴミ焼却場跡の管理棟」は、平成30年3月30日に避難所に追加指定するとともに、隣接する「ふるさと館」も避難所として追加指定し、両施設合わせて、165人の収容が可能となっております。</p> <p>阪神淡路大震災や東日本大震災の際にも、復興途上には被災者のニーズに応じて様々な応急施設が仮設されました。今後とも、被災時には、即応できる体制の構築を目指してまいります。</p>
II	防災・消防	17	<p>津乃峰・見能林地区の水害対策 津乃峰・見能林地区の県道130号線沿いは水害に悩まされています。阿南市の洪水ハザードマップでも「初期に冠水する主要道路」とされ、水害リスクが明らかです。住民が安心して生活できるよう、対策を考えていただきたい。</p>	土木課	<p>津乃峰地区・見能林地区の水害対策としては、県施設である打樋川排水機場の排水能力増強、および三谷川（県管理区間）の改修が必要であり、これまでも県に対し要望してきたところです。</p> <p>基本計画においては、基本政策Ⅱ≫1防災・消防≫基本目標1≫「県が管理する福井川等の河川整備・改修への支援」の中に位置づけ、今後も県に対し要望を継続してまいります。</p>
II	交通安全・防犯	61	<p>外灯設備の拡充 上記ナイター設備の充実に付随して、学生の帰途の外灯設備の拡充を希望します。外灯数が少ないことにより、学生の部活動帰宅時などを心配する家族や学校も多いため、安心・安全の環境づくりが必要です。光のまち阿南として、地域を代表する産業であるLEDを活用した、ソーラー式LED道路灯も一つの案。</p>	<p>市民活動支援室</p> <p>土木課</p>	<p>（市民活動支援室） 防犯灯の設置については、（交通安全・防犯）防犯環境の整備の一環で、継続して取り組みます。</p> <p>（土木課） 基本計画における、基本政策Ⅱ≫2交通安全・防犯≫基本目標1≫「交通安全施設の整備及び維持補修の推進」の中で、既設道路照明灯のLED化を推進することとしております</p>

Ⅲ	学校教育	32	基本目標2 持続可能な地域社会の実現に向けた教育の推進に・郷土愛を育む教育の推進が記載されているが、<基本的な方向性>にその内容を記載すべきである。	学校教育課	<p>【反映する】</p> <p>今日の地方における最大の課題は地方創生であり、教育という観点では若年層を中心とした人口流出、少子化に伴う様々な問題であると考えます。</p> <p>また、地球レベルの大きな課題としては、IT化や人工知能（AI）などに伴う産業構造の革新（Society5.0）、環境問題や災害対策など地域の持続的発展（SDGs）などが挙げられます。</p> <p>地域における教育においても、これらを単に事実または知識として受け身で学ぶだけでは問題は解決できず、地域の特徴や強みを活かして具体的な行動に移していく必要があります。そのための最も重要なことが教育を中心とした人材育成（ひとづくり）です。</p> <p>そのような観点から、全体的に阿南市の特徴や素晴らしさ、あるいは自らの住むまちの課題を子供たちにしっかり学ばせて、少しでも多くの若者が阿南市を誇りに思い、ふるさとの発展に寄与してくれることに繋がる教育という視点が重要であり、御指摘を踏まえ<基本的な方向性>の最後に次のように追記します。</p> <p>「本市の特徴ある自然環境や産業また地域の歴史・文化を学ぶことにより、児童・生徒の郷土への関心と郷土を大切に思う心の醸成を図ります。」</p>
Ⅲ	学校教育	31	スポーツの<基本的な方向性>に「阿南ならではの海洋スポーツ」とあるが、サップのことを指しているのなら記載すべきである。サップは海でも川でも出来るので、基本政策Ⅲ-1 学校教育に取り込み、全ての中学や高校生に郷土愛を育む教育の推進として体育の授業やスポーツクラブに導入するべきだ。	学校教育課 (スポーツ振興課)	<p>【反映する】</p> <p>御指摘をいただき、スポーツの<基本的な方向性>に次のとおり一部追記（下線部分）します。</p> <p>「阿南市スポーツ振興計画」を策定し、計画的なスポーツ環境・施設の整備促進と指導者の育成・充実を図ります。また、B&G海洋センター等の施設を活用し、SUPをはじめとする阿南ならではの海洋スポーツを体験、学習することで、達成感や成功体験を得ることによる自己肯定感を育むとともに、地域の自然に愛着を持てる豊かな心を醸成します。</p> <p>SUPをはじめとする阿南ならではの海洋スポーツを体験、学習することは、郷土愛の醸成に寄与するものと考えており、第3期阿南市教育振興基本計画の教育方針4「スポーツ振興」の中で、海洋スポーツの普及の促進を主要な施策として取り組んでまいります。</p>
Ⅲ	学校教育 スポーツ	32 37	 <p>小学校・中学校の運動場ナイター設備の充実 【現状と課題】 阿南市内の小・中学校のナイター設備は不十分であり、現在、見能林小学校・富岡小学校・阿南中学校からナイター設備設置の希望の声がある。一方で近隣住民の反対の声や、働き方改革による指導者問題など部活動に対する悲観的意見も多くなっている。体力や技能の向上を図る目的以外にも、異年齢や指導者との交流などにおいても、部活動は存続させていくべきと考えます。阿南市には、自主的・自発的に部活動に打ち込みたい方々のための環境づくりをサポートしていただきたい。更なる「野球のまち阿南」の推進をお願いします。</p>	教育総務課 スポーツ振興課	<p>小・中学校運動場については、それぞれの学校・地域における事情や歴史のもとナイター設備が整備されてきた経緯があり、整備状況にばらつきがあるとの課題を認識しています。今後の整備にあたっては、地域間格差の解消や、特定の競技者に利益が限られることがないよう配慮する必要があると考えます。一部地域に限定した施設整備に注力するより、市民全体に恩恵がもたらされるような、多様な競技が実施できる施設の整備充実に優先的に取り組んで参りたいと考えています。</p>

Ⅲ	生涯学習	35	<p>基本目標 2 学びを支える環境整備 ・図書館資料の充実</p> <p><意見>上記下線部を、「図書館資料、施設・設備の充実」と変更してください。 <理由>この項目は、「学びを支える環境整備」です。「図書館資料の充実」はもちろん重要ですが、その上で、市民が快適に図書館を利用することができるように、老朽化している図書館施設・設備の充実を加えることにより、市民が快適に安全に図書館を利用することができる環境整備が図られると考えます。</p>	図書館	<p>図書館の施設・設備の充実については、基本目標 1「多様なニーズに応えた生涯学習活動の推進」における取組としてとらえており、「図書館サービスの充実」に含むものとしております。子どもから高齢者、障がいのある方など、多様な世代や個性の方々の学習活動を支えるサービスとして、施設・設備の充実を目指します。</p>
Ⅲ	生涯学習	34	<p>阿南図書館の閉館反対</p> <p>理由 (1) 図書館協議会の答申(2年前か?)がいかされていない。 (2) 現3館の図書館の中で、最も利用者が多い。 (3) 耐震の問題があるなら(前市長時代にわかっていたはず)、なぜその時に対応策をしなかったのか、行政の怠慢としか考えられない。 (4) 図書館協議会で議論をするのもよいが、1回で、あとはパブリックコメントで「済」とするの。 阿南図書館利用者には知らせているのか? 仮に市役所2階へ移転(仮でしょうか)するとなると、利用者はどう思うでしょうか? (5) 阿南市の文化の拠点がなくなる。 (6) ある時突然、阿南図書館がなくなることにならないように、市民の声をもっと聞くことがよい。</p>	図書館	<p>阿南図書館は、今後は書庫としての機能を残し、窓口業務は市役所内に図書館カウンターを設置してサービスを継続します。阿南市立図書館のあり方については、平成30年にいただいた阿南市立図書館協議会からの答申も参考に、市民の皆さまのご意見を聴きながら、まちづくりに向けた取組とともに検討を進めてまいります。</p>
Ⅲ	生涯学習	34	<p><阿南図書館のボランティア35名の代表として図書館についてコメントします!!> ①図書館は市民の「文化と知」の拠点である!! そのためには、ぜひとも阿南市の中心地に建設されるべきである。現在、阿南図書館が建っている場所附近は阿南駅にも近く最適の場所である。 阿南駅、市役所(行政)、阿南警察署(司法)、ひまわり会館(社会福祉関係)、富岡小学校、富岡東中学校、富岡東高等学校と隣接し、阿南市の「文化」と「知」の集約地として、大きなまとまりの中で乳幼児から高齢者までが利用するシンボリック的存在となることができ『文化と知の地域づくり』の誇れる街づくりとなり得ると考える。 ②図書館のめざす姿は阿南市の未来と共に!! 図書館は「情報の貯蔵庫」「知識の伝達のための施設」に図書館司書というプロの力によって「知識の創出」という大きな役割を市民との共働によって阿南市を成長させ得る施設となることが出来る。 ③図書館は「街の図書館」として市民が集まってくる場所としての役割を創出していく!! 文明が進化しても人間は「心」を持ち「知」を探究する動物である。電子化時代に直面している阿南市の人口は高齢化へ向かっているのも現実である。 市民1人ひとりの心を大切に居心地の良い空間を生み出すための工夫やアイデア、家に引きこもりがちになりやすい高齢者たちの生活に図書館を位置づけそこから元気をとりもどしていく姿などを創出していくことで図書館は未来の市民生活に広く大きな力を発揮していく文化施設であると断言できる。そのためにも市民が利用しやすい阿南市の街の中心地に建設されねばならない。 ④阿南市には現在市町村合併などにより三つの図書館がある。しかし将来の阿南市の人口の推移、財政状況を考えるとき三つの図書館の運営はむづかしいと考える。 そこで、阿南図書館は阿南市の中心地(阿南駅を中心とした現在地附近)に、羽ノ浦図書館は阿南図書館の分館として(阿南市の中での地理的要因、人口の分布状況など)、那賀川図書館は(平家建築だが老朽化しており雨もりなどの補修もしている)阿南市史跡の博物館として、阿南市の古代からの歴史と史跡の展示館として活用していったらよいのではなかろうか。</p> <p>※令和3年度より阿南図書館が耐震の問題で閉館となる。阿南市の中心地から阿南市の「知」の施設が消失し、おそらく令和3年度の阿南市の図書館利用者数は激減することと思われる。一日も早い阿南図書館の建設を弱者としての大勢の子ども達、高齢者と共に生活し、活動している阿南図書館読みきかせボランティアとして熱望している。</p>	図書館	<p>本計画において、図書館を含めた公共施設の整備については「市街地整備・都市景観」分野の「基本目標 2 官民連携によるまちづくり」における取組として位置づけています。 図書館は市民が必要とする資料と情報を提供する知の拠点として、身近で利用しやすい環境・場所にあるべき施設です。そして安心・安全に、快適に過ごせる場であることも必要です。阿南図書館が休止することにより、利用して下さっていた市民の皆さまにご不便をおかけすることは大変遺憾に思っております。 今後は市民の意見を聴きながら、新しい施設の整備に向けて、まちづくり関係機関と連携・協力し、取組を推進してまいります。</p>

Ⅲ	生涯学習	35	<p>基本計画案の基本政策Ⅲ、Ⅳを主に読ませていただきました。その中の「基本的な方向性」に述べられている「自助・共助が有機的に連携する地域の実現」「子どもが生き生きと健やかに育つ環境」「健やかで心豊かに生活できるコミュニティ活動の活発化の促進」などのフレーズに、大いに共感します。これらの実現に効果的な役割を果たすのが図書館であると、30年間図書館作り運動、図書館ボランティア活動、子どもの文化活動、読み聞かせ活動などに関わってきて、強く思います。阿南市立図書館が老朽化により閉鎖され書庫機能のみになると聞きました。しかし、阿南市の中心部、官庁施設や富岡東中高校、小学校など集中している地域に図書館がなくなるのはこれからの市の発展にとって大きなマイナスだと考えます。図書館は文化の拠点であり、赤ちゃんから高齢者までに生きる喜びや楽しみを与え得る場所、交流の場所にもなります。那賀川図書館を有効活用させてもらいながら、阿南市の中央にふさわしい図書館がないのを残念に思っていました。財政的にいろいろ問題はありますが、目先の計算ではなく、未来を見据えた卓見が政策には必要です。若い世代がこれからも住み続けたい魅力ある街に、人が集う文化的施設は不可欠です。市民会館も利用不可能となって、収容人員の多いホールももちろん望まれますが、文化会館、コスモホールがあるので優先順位としては図書館です。市民会館の敷地にギャラリー、視聴覚室、会議室、図書館ボランティアのための部室など併設した中央図書館を作り、その機能を充分生かせる人を配置してほしいです。市民もその運営に積極的に参加できる仕組みを作り上げれば、施設の価値は高まります。利用も活発になるはず。先日那賀川図書館での読書振興協議会主催の講演会でその思いを強くしました。例えば「阿南市の文化財、歴史」も、子どもたちにもわかりやすい解説、ポップをつけた興味を引く資料の展示など多角的活用で、様々な世代に誇りや生きがいをもたらせるのでは。阿南市に図書館が3館あることは、私たちの誇りであり、生活を豊かにしてくれていると信じます。しかし、那賀川、羽浦図書館も開館して四半世紀以上なので、ここでしっかりと阿南市中央図書館を建設しておくことは将来的にも有効ではないでしょうか。これからの時代がどの様に変化していくか、あまりにも様々なものが進化するスピードが速いので見通すのは難しいですが、それに対応できる子どもたちを育てるには、読書をして自らを成長させて、生きる力を養い続けることも必要です。それを促せるのも図書館の力だと思います。どうか阿南市の未来のために、文化的シンボルとなって、新しい時代にも適応していける中央図書館建設を、基本計画に加えてくださるようお願いいたします。</p>	図書館	
Ⅲ	生涯学習	34	<p>阿南図書館について 12月定例会市長所信表明で示された「阿南図書館を書庫として利用し、カウンター業務を市庁舎に常設」について、耐震性、感染症対策の面から考えた場合、阿南図書館の再建築までの断定的な対応であるならばやむを得ないと考えます。 図書館は、「生涯学習の拠点」であり、ネット社会の今だからこそ求められる癒しの空間でもあります。貸出・返却カウンターのみならず、誰もが自由に本等を手に取り、選び、過ごせる市民の精神的な拠り所であり、教育・子育ての現場との連携・支援にも不可欠なものであります。行政の拠点である市庁舎を核にした中心市街地の再生のために大きく貢献できる公共施設の一つだと思います。 将来の那賀川、羽ノ浦図書館の老朽化を踏まえた上で、一国も早く中央館としての阿南図書館の建設計画を策定し、実現していただきたいと思っております。</p>	図書館	

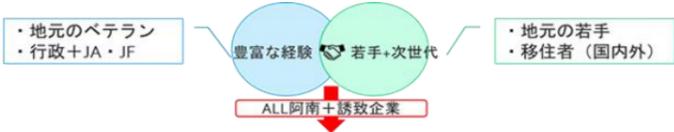
Ⅲ	生涯学習	34	<p>2生涯学習 <現状と課題> ◇図書館では、各館とも施設・設備の老朽化が進んでおり、市民から期待されている「快適にくつろげる場」「情報化社会に対応した場」としての図書館機能の維持が課題となっています。そのため、将来にわたり利用しやすい図書館を目指し、施設の在り方の検討が必要です。</p> <p><意見> 上記下線部を、「そのため、将来にわたり利用しやすい図書館を目指し、耐震性が不足している阿南図書館の対策及び図書館施設全体の在り方について早急に検討していきます。」などの文言に変更してください。</p> <p><理由> 「3. 市街地整備・都市景観<現状と課題>」の中に、「阿南図書館、市民会館は耐震性が不足しており、早急に対策を検討する必要があります。」と記載されていますが、この内容に違和感を持ちました。なぜ、「2. 生涯学習」の中で触れられていないのか？ 図書館は、「図書、記録その他必要な資料を収集し、整理し、保存して、一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とする施設（略）」と図書館法第2条で定められています。また、Lプラン21（日本図書館協会）では、①「民主主義を支える図書館」、②「地域の情報拠点」、③「生涯学習の中核施設」、④「地域の百科事典、タイムカプセル」、などの幅広い役割があることを述べています。また、近年では、地域活性化の拠点としても期待されているところですが、そのことは図書館の基本的機能である「資料・情報を求める全ての市民への資料提供」に真摯に取り組む日々の活動の積み重ねの上に、実現されることだと思います。社会教育施設である図書館の果たすべき役割、そのための組織（体制）をどう整備していくかについて、総合計画の生涯学習の中で、しっかりと述べる必要があると考えます。</p>	図書館	<p>建物自体に問題がある阿南図書館と、老朽化した設備の改修・改善が必要な那賀川図書館・羽ノ浦図書館とは、現状の課題を分けて考える必要があります。</p> <p>阿南図書館は阿南市立地適正化計画において、維持・拡充型の施設として位置づけられており、今後はまちづくり関係機関と連携・協力し、市民の皆さまの意見を聴きながら、整備に向けて検討を進めてまいります。</p> <p>那賀川図書館は経年劣化等により必要となる改修を行うとともに、サービス・資料の充実を図り、羽ノ浦図書館と連携し、市民の学びを支援し、また様々なライフステージにおいて利用され信頼される図書館を目指していきます。</p>
Ⅲ	生涯学習	34	<p>基本目標4 図書館活動の推進 <意見> 「阿南市図書館振興計画（仮称）を策定する」を追加してください。</p> <p><理由> 12月議会の市長所信では、市庁舎内に図書館カウンターを設置すること、合わせて阿南図書館は書庫として位置づける旨が述べられました。また、阿南図書館を今後どうするのかについては、所信では触れられていないようでした。阿南市では、阿南、那賀川、羽ノ浦の3図書館が連携・協力することによって、四国内の市立図書館の中で、貸出密度1位を長期間、達成してきました。市民からは、図書館が充実している阿南市に住んで良かったとの声も聴きました。また、阿南図書館は、一番古く手狭な図書館ですが、開館以来からの予約サービスの実績やその立地条件を活かし、今では3館中最も利用されている図書館となっています。市庁舎内に図書館カウンターを新たに設置、阿南図書館は書庫として位置づける、などの新たな体制の中で、どのような図書館サービスを提供しようとしているのか。市民は、どのように利用すれば良いのか。特に、阿南図書館の利用者の方に対してどう説明していくのか。この新たな体制は、いつまで続くのか。阿南図書館は、新しくならないのか。疑問は尽きません。今、行政に求められていることは、これからの阿南市における図書館政策をどのように進めるのかを明確にし、その内容を市民に向けて発信することだと思います。そのためには、「阿南市図書館振興計画（仮称）」を早急に策定することが必要だと考えます。</p> <p>（追記） 耐震性不足の阿南図書館に職員を配置し、書庫として使用することは、職員の安全面で問題はないのか。この体制は、可能な限り短い期間であるべきと考える。</p>	図書館	<p>本計画における「図書館活動の推進」については、那賀川・羽ノ浦図書館及び市役所に設置する図書館カウンターの連携・協力体制を一層強化し、市民の求める資料・情報を迅速に提供し、市民に信頼される図書館活動に取り組んでまいります。</p> <p>阿南図書館の今度については、まちづくり分野の関係機関と協力して、図書館を含めた公共施設の整備に向けて検討を進めるとともに、阿南市立図書館のあり方についても、平成30年にいただいた阿南市立図書館協議会の答申や市民の皆さまのご意見を参考に、図書館振興策について協議していきます。</p>
Ⅲ	スポーツ	37	<p><基本的な方向性>から野球が消えているが、海洋スポーツに変更したということか？野球人口が減少した原因として阿南市が恣意的に阿南アグリ球場をインディゴソックスのホーム球場でなくしてしまったことが大きい。プロスポーツを利用するまちづくりは世界や全国に見られるが逆行してしまい非常に残念である。今やインディゴソックスはアイランドリーグの中でNPBへ一番多くのプロ野球選手を輩出している。阿南に住む子供たちにプロ野球選手の夢を見させるためにも、もう一度ホームチームになってもらい、ベースボール型のスポーツ推進に取り入れてほしい。</p>	スポーツ振興課	<p>野球人口が減少した原因に、少子化、スポーツの多様性があげられます。また、交通の利便性などによる集客力の問題からインディゴソックスが試合球場を選定しているもので、本市が恣意的にホーム球場でなくしてしまったということではありません。本市としては、野球だけでなくすべてのスポーツの推進に取り組んでまいります。</p>

Ⅲ	スポーツ	37	<p>J A アグリあなんスタジアムの積極的開放 阿南市には素晴らしいスタジアムが整備されているので、地域住民への積極的開放をお願いしたい。また、整備に尽力されているスタッフの管理が厳しすぎるという声もあります。県内外からの利用者呼び込み、地域が活性化されることも大切ですが、阿南市民が有効活用できなければ本末転倒です。地域住民を第一に考えた施設にして欲しい。</p>	<p>スポーツ振興課 (野球のまち推進課協議)</p>	<p>スタジアムの積極的な開放に向けて、できるだけ市民の方に利用していただけるように、有効活用を検討して参ります。グラウンドを最適の状態に保つため、管理基準を定め厳正に対処してきたところではありますが、一方で多方面から「管理が厳しい」との御指摘も受け、管理基準を一部見直し、以前に比べて利用しやすい環境を整備しております。しかし、「良好なグラウンド状態」はJAアグリあなんスタジアムの最大の魅力のひとつであることから、グラウンド利用にあたっては一定程度のルールを利用者に守っていただく必要があると考えています。</p>
Ⅳ	農業・林業・漁業	43	<p>「農業・林業・漁業」に具体的な新規計画が記載されていない。樁泊にフィッシャーメンズワープの新設とかJ Aと協力とか6次産業化の具体的には取組を記載すべき。</p>	農林水産課	<p>農業・林業・漁業における具体的な新規計画・新規事業については、生産者の意向が第一であり、生産者の幅広い要望に応えるため、総合計画における具体的な記載は控えたいと考えております。</p>
Ⅳ	工業	45	<p>工業の〈現状と課題〉が阿南市の現状と全く相違している。他の町の総合計画とコピペを間違っただけではないか？阿南市は四国でも有数の工業出荷高を誇っている。よその町とは全然違うので全て作り直す必要がある。また、阿南市の総生産の90%以上を占める産業であり1,2ページとはあまりにも少なすぎる。中小企業の振興策も記載がない。中小企業振興基本条例に沿って中小企業の振興を図る等の記載が必要である。</p>	企業振興課	<p>【反映する】 <現状と課題>の1つ目を下記のとおり修正します。 ◇本市においても、中小企業を取り巻くビジネス環境は厳しさを増しており、少子高齢化や人口減少による市場規模の縮小や後継者・人手不足などさまざまな問題があります。若者世代が定住し、将来に希望を持つことができる持続可能な発展を進めていくためにも、中小企業事業者が元気に活動できる環境を整える仕組づくりが必要です。</p> <p>◇本市には、国内有数の製造業が立地しており、これまで本市の産業や雇用を支え、また、大多数を占める中小企業が産業の振興を担っています。しかし、これら既存企業を取り巻くビジネス環境は厳しさを増しており、少子高齢化や人口減少による市場規模の縮小や後継者・人手不足などさまざまな問題があります。若者世代が定住し、将来に希望を持つことができる持続可能な発展を進めていくためにも、全ての市内事業者が元気に活動できる環境を整える仕組づくりが必要です。</p> <p>また、中小企業振興基本条例に基づく振興策については、<主要な取組>の「中小企業の経営基盤強化」の中で取り組むこととしており、「商業(P47)」の中で、同条例に基づく役割を示しています。</p>
Ⅳ	工業	45	<p>日亜化学工業との共存を先進地の豊田市のように具体的に総合計画に入れる。 総合計画に日亜化学工業の立場等を明確に記載し、共存を明確にする。</p>	企業振興課	<p>【検討済み】 基本目標1<主要な取組>に「阿南工業高等専門学校等の学術機関及びLED関連企業との連携強化」を追加し、県が進めるLEDバレイ構想の下、LED関連企業の集積拡大に貢献してまいりたいと考えています。</p>
Ⅳ	工業	45	<p>日亜化学工業はすでに敷地不足になっている恐れがあり、新たな内陸工業団地の計画</p>	企業振興課	<p>【検討済み】 基本目標1<主要な取組>に「高速道路ネットワークの開通を見据えた産業用地の整備構想の検討」を追加し、関係機関と緊密な連携を図り、他市等の状況も参考にしながら、企業誘致の環境整備に取り組んでまいりたいと考えています。</p>
Ⅳ	工業	45	<p>日亜化学工業関連の新規企業誘致と既存企業への支援及び補助金創設を総合計画に入れる。 日亜化学工業はLEDの次の事業に乗り出しており、今以上に発展する期待感がある。豊田市を参考に城下町を目指す計画を明確にする。</p>	企業振興課	<p>【検討済み】 基本目標1<主要な取組>に「阿南工業高等専門学校等の学術機関及びLED関連企業との連携強化」を追加し、県が進めるLEDバレイ構想の下、県をはじめ阿南工業高等専門学校の取り組みと連携・協働し、LED関連企業の集積拡大に貢献してまいりたいと考えています。 また、補助金創設は予算を伴うことであることから、計画には反映させず、ご意見を参考にさせて頂きながら検討してまいりたいと考えています。</p>

IV	工業	45	<p>【先端工業の町としてのインフラ整備】 阿南市の製造品出荷額は徳島県下有数の実績があります。これまでも阿南市経済を支えてきているのは工業です。高速道路建設が進み、高速交通時代を迎えるについて、更なる工業生産活動を強化することがこれまでもこれからも阿南市発展の基盤です。一方で、南海トラフ巨大地震や津波被害発生リスクやさらには、那賀川、桑野川の河川氾濫リスクの高まりが工業立地の足かせになる可能性があります。又、阿南市には、すでに適切な工業立地場所がありません。工業の町阿南市として、新たな工業立地団地建設に取り組むべきです。できれば、建設が進む徳島南部高速道路周辺にまとまった工業団地を建設し、新たな生産拠点づくりを目指すべきだと思います。高速道路が開通し、インターチェンジが完成した松茂地域や北島町周辺には新たな工場立地が進んでいます。参考にすべきだと思います。</p>	企業振興課	<p>【検討済み】 基本目標1<主要な取組>に「高速道路ネットワークの開通を見据えた産業用地の整備構想の検討」を追加し、関係機関と緊密な連携を図り、他市等の状況も参考にしながら、企業誘致の環境整備に取り組んでまいりたいと考えています。</p>
IV	商業	47	<p>全ての商工業者の将来のビジョンを支援する仕組みを総合計画に取り入れる。 各商工業で縮小ではなく、拡大の将来ビジョンを具体的に策定する。</p>	商工観光 労政課	<p>【検討済み】 【商業（P47）】<基本的な方向性>を下記のとおり修正 中小企業者の競争力強化を目的として、事業者の創意工夫による経営革新や経営基盤強化への自主努力を支援するため、阿南市中小企業振興基本条例の基本理念に基づき関係団体はそれぞれの役割に沿った取り組みを行います。</p>
IV	商業	47	<p>阿南市中小企業振興基本条例を実践するための人材、組織づくりを明確にし、中小企業振興施策を具体的に計画する。</p>	商工観光 労政課	<p>阿南市中小企業振興基本条例第11条の7つの施策の基本方針に基づき、関係団体が連携し中小企業者の成長・発展を支援するために、基本的施策を実施していきたいと考えています。</p>
IV	工業	46	<p>阿南市内での新規事業創業の立ち上げに対して補助金導入など、積極的な取り組みをブランド化する。</p>	企業振興課	<p>本市では平成28年度から創業支援セミナーを開催し、新規創業者が国の補助金を受給できるよう支援しています。しかし、全国的には、創業支援事業の受講者数、新規創業者数は伸び悩んでおり、国の方針も創業機運を盛り上げる学生等に対する出前授業、ビジネスコンテスト等にシフトしてきています。 新産業の創出を担う起業家の育成は、本市にとって重要な取り組みであり今後も継続する予定ですが、補助金創設については、予算を伴うことから計画には反映させず、国から示される方針や制度概要を注視しながら、検討してまいりたいと考えています。</p>
IV	商業	47	<p>商業の<基本的な方向性>の内容に中小企業振興基本条例の記載が必要。どのように強化支援していくか分からない。<主要な取組>も少なすぎる。<基本的な方向性>にあるように商工会議所と連携し<主要な取組>を追加するべきである。現状と同じでは余りにも可哀そうである。</p>	商工観光 労政課	<p>【検討済み】 【商業（P47）】<基本的な方向性>を下記のとおり修正 中小企業者の競争力強化を目的として、事業者の創意工夫による経営革新や経営基盤強化への自主努力を支援するため、阿南市中小企業振興基本条例の基本理念に基づき関係団体はそれぞれの役割に沿った取り組みを行います。</p>
IV	観光	49	<p>観光について、阿南市は室戸阿南海岸国定公園地域がある市町村である。国定公園は自然公園法で「優れた自然の風景地を保護するとともに、その利用の増進を図ることにより、国民の保健、休養及び教化に資するとともに、生物の多様性の確保に寄与することを目的とする。」まさしく国民の観光地である。なぜ総合計画に記載しないのか、また利用しないのかコンサル会社の調査が甘いのではないのかと感じる。総合計画に記載するべきである。また他の市町村のように阿南市から支援される独立した観光協会（専従職員がいる）の設立を記載するべきである。</p>	商工観光 労政課	<p>【反映する】 【観光（P49）】<基本的な方向性>に下線部を追記 室戸阿南海岸国定公園等の恵まれた自然や歴史、文化、国史跡を中心とした文化財を生かしながら、体験・体感型観光プログラムや観光ルートを確立するとともに、安全・安心で快適な「新しい旅行スタイル」に沿った観光需要に応える受入れ環境の整備を促進し、広域的な連携と「光のまち阿南」「野球のまち阿南」「SUPタウン阿南」「スポーツツーリズム」をキーワードに、本市の地域資源とマッチングした新たな観光開発を促進します。</p> <p>観光協会の設立について、本市には法人格を持たない任意団体である「阿南市観光協会」があり、市が事務局業務を行っています。独立した事務所及び常勤の職員を有する観光協会の設立については、当協会の中で協議すべきものと考えますので記載しないこととします。</p>

IV	観光	49	橘町を高速バスや観光バスを活かし、又、小勝島周辺を遊覧船により、観光の拠点とする。	商工観光 労政課	観光開発は中長期的な視野に立つと、持続的な運営を行うためには民間活力の活用が必要であると考えます。 民間事業者の動向を注視しながら参入を促進し、PR活動等側面からの支援を考えていますので具体的な記載はしないこととします。
IV	観光	49	観光開発・魅力発信 県南部の観光の拠点として阿波橘に海の駅誘致阿波の松島といわれる橘湾や南室戸国定公園の遊覧・加茂地区の遺跡・大龍寺周辺から津乃峰山に連なる鍾乳洞と大理石や火打ち石・阿波古事記の物語・海部那賀の観光。体験型ツーリズムの充実		
IV	観光	49	【野球の町による観光誘客事業】 人口減少を前提とした総合計画案となっています。現状の出生率を前提とすれば、やむを得ないと思いますが、社人研の人口動態予測より阿南市将来人口を上積みする計画となっていますが、具体的施策が不十分だと思います。前総合計画や阿南市人口ビジョンにおいても同様に社人研人口予測を上積みした人口ビジョンが示されていましたが、結果は達成されていませんでした。これまでの阿南市人口ビジョンの検証は十分にされず、新たな計画を策定しても同様の結果になることを懸念しています。特に、人口減少は地域経済の縮小につながることが懸念されますので、これまで取り組んできている野球の町交流事業をさらに強化することが重要だと思います。人口減少による経済的マイナスをカバーするには、交流人口や関係人口対策が重要ですが、記載されている「野球の町」による交流人口対策は極めて不十分だと思います。特に、現下のコロナウィルス感染によるダメージは阿南市内観光業、宿泊業、飲食業に集中しています。ポストコロナ対策としての観光産業活性化には、野球の町としての事業を強化すべきだと思います。これまでの野球の町事業を強化し、アグリスタジアムの活用を強化するとともに、さらに野球場を追加整備し、野球合宿の誘致や各種野球大会に企画、野球の大規模大会の企画や誘致を強化し、スポーツ観光事業による交流人口増を目指すべきだと思います。	野球のまち 推進課	野球のまち阿南推進事業では、「野球」を産業資本としたスポーツツーリズムによる地域の活性化の推進のため、幅広い年代層の野球大会の開催、野球観光ツアーの実施、学童・高校・社会人等の合宿誘致、ティーボール教室等の各種イベントを開催し、地域の活性化・交流人口の拡大・関係人口の創出拡大・野球人口の底辺拡大を推進しています。 現状の球場数で確保できる利用日数と利用可能期間で開催している野球観光ツアー、合宿、大会等の日数は上限に近い数値となっています。今後の事業展開として、夏季休暇期間の学童チーム等の平日合宿の誘致や、野球観光ツアー・野球合宿と阿南市の豊かな自然を活かした体験型スポーツを組み合わせた新しい形のスポーツツーリズムを推進していくことで、「野球のまち阿南」事業を発展させていきます。 少子化やスポーツの多様化に伴い野球人口の減少している中、野球のまち阿南推進事業を継続的に発展させ地域の活性化に寄与するためには、野球人口の底辺拡大が必要となってきます。このような状況に対応するため、令和3年度よりベースボール型スポーツスタート事業として、ティーボール出前教室等を開催します。また、野球人口が減少する中で、女子の野球人口は年々増加しています。阿南市では、県内初の女子硬式野球部の創設を目指し令和2年度に「女子硬式野球体験会」を開催し野球人口の底辺拡大と交流人口の拡大・関係人口の創出拡大を推進していきます。
IV	雇用環境	51	雇用環境について、国の方でも働き方改革が進められているが、50年前の阿南市の就労者のほとんどが農業、漁業とかの兼業であった。阿南市のように農林水産業と工業が並立する地域では兼業が人手不足を解消する一つの方法である。全ての人が安定した専業を望み楽で高収入の職業を望むため、きつい苦しい仕事は敬遠され人手不足になっている。例えば阿南市職員や会社員が兼業で週2日とか農業や建設産業に従事しても良い時代になれば人手不足は解消されるのではないかと予測できる。市町村として兼業に取り組み人手不足産業の支援を行うことも地域資源を生かした新たなにぎわいと活力を創出するまちづくりではないでしょうか？	商工観光 労政課	公務員の兼業に対する事例等の情報収集を行い、どのような形で地域の人手不足の解消や地域の発展活性化を支援できるか考えてまいります。
IV	雇用環境 農業 ・ 林業 ・ 漁業	43	市内住民の地元企業への雇用促進の充実を図り、定年退職後の農業従事後継者づくりの環境整備体制構築	商工観光労政課 ・ 農林水産課	【商工観光労政課】 企業ガイドによる地元企業の紹介や、雇用対策協定による市内住民の地元企業への雇用促進の充実を図りたいと考えています。 【農林水産課】 退職後において一次産業従事を希望される方を支援することは、担い手育成としても重要な視点であり、「担い手・後継者対策」の取組の中で推進したいと考えております。
IV	交流	53	交流について、<基本的な方向性>に記載されている関西ふるさと会には参加していますが、年々縮小しているように感じます。交流の深化は分かりませんが成果を公表すべきだと思います。関係人口受入に関わる中間組織の数や関係人口の数も基本目標に入れるべきである。関西ふるさと会を隔年で阿南市で開催するののも一つの方法である。	ふるさと 未来課	関係人口は、ふるさと納税等を通じてや地域づくりに参画、地域の人との交流やイベントに参加する等、多様かつ継続的に本市と関わる人であるため、一概に人数で把握することはなじみません。東京・関西のふるさと会の活動を支援することにより、郷土愛の醸成とともに阿南市を継続的に応援してくれる関係人口の創出・拡大を図ってまいります。関係人口に着目した施策の結果として、阿南市版ふるさと納税による寄附者の拡大やUIターンへつなげてまいります。

IV	交流	53	<p>阿南市の国際交流協会日本語教室で外国人に支援をしている者です。基本計画(案)には、阿南市に在住する外国人に対する取組が具体的に示されていないように思われます。</p> <p>基本政策Ⅳの「地域資源を生かした新たなにぎわいと活力を創出するまちづくり」の中で、「◇2019年4月の改正入管法の施行に伴い、今後本市においても外国人の増加も想定されることから阿南市国際交流協会とのさらなる連携が必要となってきます。」とありますが、どのような理念で、具体的にどのような取組をするのか、行政は主体的に何をするのが十分に伝わってきません。</p> <p>これまで地方自治体では、「交際交流」、「国際理解」を柱として地方の国際化が進められてきましたが、在住外国人の増加による社会の変化に対応して「多文化共生」を第3の柱として地域の国際化を推進することが求められています。</p> <p>阿南市としても地域の国際化の基本理念として「多文化共生」の考え方に基づく基本施策を市民に提言すべきです。</p> <p>総務省の多文化共生に関する研究会では、地域における多文化共生を「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと」と定義しています。</p> <p>このことから、在住外国人の問題は外国人だけの問題ではなく、阿南市民全体の問題であるということが出来ます。</p> <p>阿南市国際交流協会では 創立30周年を機に、「多様性が結ぶ日本と世界」というスローガンを今後の活動指針として、様々な事業に取り組んでいきます。</p> <p>阿南市としても、在住外国人に対する具体的な取組を主体的に策定し、阿南市国際交流協会との連携を深めるべきだと思います。</p> <p>地域の国際化は、SDGsの中の「3. すべての人に健康と福祉を」「4. 質の高い教育をみんなに」「10. 人や国の不平等をなくそう」「11. 住み続けられるまちづくりを」に当てはまると思います。「誰一人取り残さないleave no one behind」ことを実現するために、ぜひとも「基本計画」を充実させていただき思います。</p> <p>具体的な市の施策として次のことをお願いしたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域の国際化、多文共生を推進する部署を設置する。 2. 地域の国際化、多文共生拠点として「交流センター」のような施設を作り、市の職員、国際交流協会、その他のボランティア団体が常駐して、常に外国人との交流や外国人への支援が行えるようにする。 3. 市職員の国際化のための研修を行う。単に外国語に堪能であるとか海外経験があるとかいうだけでなく、人と関わるための姿勢やマインドを育成する。 4. 外国人に対する学習機会の保障は、国の責務であるという趣旨に基づいた「日本語教育推進法」が昨年度成立しています。市としてすべきことを洗い出し、国際交流協会と具体的にどのような連携ができるかを検討して連携を密にする。 <p>以上、よろしく願いいたします。</p>	<p>秘書広報課</p> <p>(商工観光 労政課協議)</p>	<p>本市では、住民基本台帳に登録されている外国人が11月末日時点で、21か国、363人となっており、在留外国人が在留手続きや雇用、医療、子育て等に係る適切な情報や相談場所に迅速に到達することができるよう、情報提供・相談を多言語で行う一元的相談窓口の必要性を感じる場所です。</p> <p>しかしながら、現状においては、多言語をこなせる人材がいなかったり、行政だけで行うには非常に困難な面があり、県内他の自治体においても国際交流協会等、民間組織に協力を頂いているところであり、本市においても「阿南市国際交流協会」が、外国人との交流を図る各種事業を展開し、阿南市の国際交流の中心的な役割を担っていただいております。</p> <p>来る2025年の大阪万博や高規格道路の南進を見据え、国際化がますます加速すると予想されることから、「人権のまち阿南」として、住み暮らす人の心の豊かさや多様性を重んじる取組が求められていると考えており、このことは県内他市等においても同様の状況にあると考えております。</p> <p>こうしたことから、現段階では具体的な施策をお示しすることはできませんが、今後、県単位あるいは県南部単位など広域的な取組も視野に入れ、国・県はもとより他市等の動向にも注視し、調査・研究を行うとともに、阿南市国際交流協会をはじめとした民間の組織にも御協力を頂きながら、人材不足の課題解消や国際的な交流・関係人口の創出等にもつながる取組を検討してまいりたいと考えております。</p>
----	----	----	--	--------------------------------------	--

IV	農業・林業・漁業	42	 <p>阿南市にある豊富な農林水産資源に加え、SDGsの観点からも豊かな気象条件を活用した計画を今後作成していただくことを求めます。</p> <p>1. 豊富な農林水産資源を有する阿南市ですが、漁業者の高齢化や後継者不足の問題が深刻化しているため、生産効率化や農林水産業の振興が可能な企業の誘致をすることが有効ではないでしょうか。</p> <p>【現状の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・徳島県内でもトップクラスの農林水産業が盛んな阿南市において、高齢化と後継者不足問題が深刻化している ・豊富なポテンシャルを有効活用しながらも保全し、次世代の育成と知識継承が急務となっている ・農産物や水産物のブランド化とブランディングを一層強化し、販売の多角化と今まで以上の収益化が必要な状況である <p>【解決案のイメージ】</p>  <p>次世代を育成しつつ、農林水産物のブランド化の強化</p>	農林水産課	<p>御意見のとおり、農林水産業全てにおいて、高齢化と担い手不足が深刻化しております。課題である次世代育成と農林水産物のブランド化等については、総合計画において、担い手・後継者対策の取り組み、高付加価値化の取組として推進したいと考えております。</p> <p>また、本市戦略作物のうち、ハウスきゅうりについては、指標を設定するなど、本市の気象条件等にあった作物の産地化を進めたいと考えております。</p> <p>なお、幅広い要望、手法に応えるため、総合計画における具体的記載は控えたいと考えております。</p>
			 <p>2. 日本政府が推進している再生可能エネルギーの誘致を行い、新規産業の誘致と優秀な人材を阿南市に呼び込むチャンスがあるのではないかと考えます。再エネ企業の誘致はいかがでしょうか。</p> <p>☞阿南市は日本でも有数の日射量や、紀伊水道からの強い風が吹くため、太陽光発電や洋上風力発電の適地だと考えております。</p> <p>【具体的なアイデア】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 外部講師や企業を招いての再エネに関する勉強会の実施 <ul style="list-style-type: none"> >徳島県内で再エネ開発を行っている企業や団体等による勉強会 >市内企業の再エネ参入の機運もたかめられる 2. 企業誘致と共に市内学校での再エネ教育・次世代育成 <ul style="list-style-type: none"> >企業誘致による経済効果の算定を行い、地元・自然との協調を考えた開発促進 >工業高校・阿南高専での次世代育成教育 3. 市内におけるエネルギー自給率向上と非常用電源活用 <ul style="list-style-type: none"> >エネルギー自給率を向上することで外に依存しない街に >自家消費型再エネ設備に対する補助制度の導入検討 <p>➡ 再エネ企業以外に、新規産業誘致も期待できると考えます。</p>	企業振興課 (環境保全課協議)	<p>今回の計画において、風力発電等の次世代エネルギーに関する勉強会を実施します。その中において、再エネ企業の誘致、経済効果等について、市民事業者向けの勉強会を行います。</p> <p>また、補助金制度の導入については、県内他市の状況を注視していきたいと考えております。</p>

V	土地利用	55	<p>土地利用の基本目標1 集住型のコミュニティづくりの推進について、阿南市の歴史は14か町村が合併して出来た街でそれぞれの町には伝統と文化や歴史が有り全ての町を継承していく必要があります。<基本的な方向性>の「公共交通を軸とした集約型の都市圏を目指して土地利用の規制や誘導を図り」は間違った都市計画であり、居住誘導区域は地域の小学校を中心とし小学校が町から消えることが無いような政策を進めるべきである。このことについては何年も前から阿南商工会議所から阿南市に「商工会議所としての意見を公表し、これを国会、行政庁等に具申し、又は建議すること。」をしている。誰の意思で無視をしているのか大きな問題である。また最も重要な土地利用について基本目標や推進事項が少なすぎる！現在の阿南市は土地利用の施策において8年くらい前から県内でも最も劣っている。平成24年3月に制定された国土利用計画阿南市計画の基本理念である</p> <p>「市土は、現在及び将来における市民のための限られた資源であり、生活及び生産を通じて行う諸活動の基盤です。したがって、その利用では、公共の福祉を優先させ、自然環境の保全を図りつつ、本市の自然、社会、経済及び文化の実情に配慮し、「健康で文化的な生活環境の確保と市土の均衡ある発展を図る」ことを基本理念として、総合的かつ計画的に行います。」が間違っていたのか、公共の福祉を間違っって解釈してしまったのか</p> <p>本来なら日垂化学工業の発展に伴い阿南市も発展するべきであったが土地利用の失敗で8年前とあまり変わらない現状を反省し、その反省を今回の計画に取り入れるべきである。また農業振興地域等の農地法の問題について正面から立ち向かうような挑戦的な取組も土地利用の主要な取組に入れるべきである。そして阿南市の将来像を夢見るような阿南ヒルシティー計画（工業都市の阿南市に50年後の南海地震津波対策として、富岡、見能林、津乃峰、桑野、長生、宝田町に囲まれた丘陵地に新たな国際観光都市を提案している。）のような将来像を計画に盛り込む。</p>	まちづくり推進課	<p>本市は、これまでの14か町村の合併による市街地形成の成り立ちを踏まえ、都市部における「都市拠点」や「地域拠点」だけでなく郊外部の鉄道駅周辺や交通要所、小学校等を中心に「集落拠点」を配置し、地域住民との協働により、それぞれの地域で育まれた歴史や文化の継承に取り組む方針です。</p> <p>今後も高齢化が進むことが予想されているため、子どもから高齢者までの誰もが暮らし続けられることができることを念頭に、自動車に過度に依存しないよう、公共交通を軸とした集約型の都市圏の形成を目指しています。</p> <p>農地法は、農業の基盤である農地を守り、食料の安定供給に資するため、農地の売買や転用に規制を設けています。市街化調整区域においては、農地法等に基づき開発と農地の調和のとれた土地利用を推進する必要があります。</p> <p>本市の沿岸地域の大部分は、南海トラフ地震に伴う津波浸水想定区域であることから、津波災害を考慮した安全なまちづくり施策が求められており、居住誘導区域内における安全性の確保や内陸部への緩やかな移住の誘導等について今後検討し、将来にわたって安心して暮らし続けられるまちづくりを目指します。</p>
V	土地利用	55	<p>50年後を見越して阿南ヒルシティー計画のような夢のある将来都市計画を総合計画に盛り込む。</p> <p>阿南ヒルシティー計画は、工業都市の阿南市に50年後の南海地震津波対策として、富岡、見能林、津乃峰、桑野、長生、宝田町に囲まれた丘陵地に新たな国際観光都市を提案している。</p>		
V	土地利用	55	<p>「郷を大切に」</p> <p>誰も生まれ育った郷が好きである。町ごとに文化があり小学校ごとに各行事が行われ活気があったが、少子高齢化により文化の伝承が難しくなっている。市街化調整区域内にある小学校周辺では原則農家の子孫で無ければ住宅建築不可、非農家の子どもたちはそこで生まれ育っても家を建てられないので郷をすてている現状がある。郷の賑わいを取りもどすために、小学校を中心とする田園住居地域を設け誰でもが住居を建てれるようにしていただきたい。</p> <p>田畑・山を保全するためにも郷に活気がなければ難しい。</p>	まちづくり推進課	<p>市街化調整区域は原則、農家住宅等の許可が不要な一部の建築物を除き新たな建築物を建築することができない区域となっておりますが、本市は、平成24年度の開発許可の権限移譲に伴い、市街化調整区域における建築物の立地基準を条例で定めており、その中で、小学校周辺等の既存集落地の活力が保持できるよう、県内他市町にはない独自の立地基準である「田園集落地」を定めています。この基準を適用して一定の条件を満たすことで非農家であっても住宅を建築することは可能となっております。</p>
V	土地利用	55	<p>地域の文化を守り、又、郷土愛の教育を実施しながら人口増に繋げていくために、既存の小学校を中心に田園都市、田園住宅地域を設けて都市計画を見直し、住宅を建てやすくする。</p>	まちづくり推進課	<p>市街化を促進する市街化区域内では、小学校周辺地域に住宅を建築することは可能ですが、市街化を抑制する市街化調整区域内では原則、農家住宅等の建築物を除き新たな建築物を建築することができません。</p> <p>しかし、本市は、市街化調整区域における建築物の立地基準を条例で定めており、小学校周辺等の既存集落地においても、県内他市町にはない独自の立地基準である「田園集落地」を定め、住宅を建築することは可能となっております。</p>
V	土地利用	55	<p>阿南市内を学校単位で東、西、南、北部地区の4区分とし、個性豊かなまちづくりと教育を目指し、各地区の産業、文化を伝承し、小学校単位で住居地域を設ける。</p>	まちづくり推進課	<p>本市の「都市計画マスタープラン」では都市計画区域を7つの地域に区分し、それぞれの地域の特性に応じたまちづくり方針を設定しています。市街化調整区域に住居地域を設けることはできませんが、本市の「立地適正化計画」では、郊外部の小学校等を中心とした地域に「集落拠点」を配置し、都市部との交通網を構築することで、それぞれの地域で育まれた歴史や文化を継承し既存集落を維持することを方針としています。</p>

V	土地利用	47	土地の使用制限を緩和し、若者を集客できるような、外食産業・飲食チェーン店の誘致	まちづくり推進課	本市は、市街化を活性化する地域である「市街化区域」と市街化を抑制する地域である「市街化調整区域」に区域区分されています。原則、土地利用が制限されている市街化調整区域の内、市街化区域に隣接する区域や幹線道路沿線には日常生活に必要な物販店や飲食店、地域雇用に結びつく地場産業等の立地が可能となるよう市の条例で立地基準を緩和していますので、今後もこの緩和規定を活用し、地域特性に応じた土地利用を行い、活性化に努めます。
V	土地利用	55	南部地域の整備及び活性化の推進を総合計画に入れる。 橘町の新浜造船所跡地を有効活用し、大阪への航路による海上の流通拠点及び道路整備による陸上の物流拠点を新設。	農林水産課 (まちづくり推進課協議)	橘町の新浜造船跡地については、取得以降、様々な用途を検討しております。御意見も含めて検討して参りますが、幅広い要望に応えるためには総合計画における具体的記載は控えたいと考えております。
V	土地利用	55	「生活環境」 交通渋滞の緩和、日垂化学本社周辺での朝夕の渋滞はひどい。排気ガスでの環境破壊や時間の無駄が問題である。交通渋滞は道路整備のみでは無理で通勤車両を減らすことが必要と考える。通勤者の多くは市外からの若者である。来る住まいを設ける必要がある。住勤短の施策として日垂化学周辺の開発可能な場所には共同住宅・アパート・長屋の建築を認める条例を制定していただきたい。市街化調整地域での共同住宅建設は既存宅地のみ可能なので建築が出来ない。	まちづくり推進課	日垂化学工業株式会社本社地周辺は市街化調整区域であるため、共同住宅の建築については市街地の分散化につながることから新規での立地は認められておりません。しかし、ご指摘のように同地域周辺は、通勤時の渋滞が日常的に発生している状況であり、渋滞緩和を図るためには、道路整備を進めることはもちろんですが、住宅確保の取り組みも効果的であると考えております。同地域には阿南インターチェンジの整備が予定されていることから、インターチェンジの整備を見据えた土地利用を検討するとともに、人口の流出を防止し域外からの転入を増加させるため、若者が定住できる住環境の確保に努めて参ります。
V	土地利用	55	国道55号バイパスの有効活用 阿南市の中心には55号バイパスという整備された国道が走っているが、周辺・道沿いは田畑しがなく、もっと有効活用できる方法があるのではないかと考えます。 ショッピングモールや阿南市をPRできるような施設づくりなども一つの案。	まちづくり推進課	国道55号阿南道路沿道は大部分が市街化調整区域に指定され、集団的な農地が広がっています。集団的な農地は優良農地として保全することが基本となっており、開発行為等は原則的に抑制することとしています。しかし、国道沿道における土地利用の必要性から、国道沿道の一定の区域内において、要件を満たすことで日常生活に必要な物販店・飲食店や地域雇用に結びつく地場産業等の立地が可能となる条例を定めております。農地法等の制限がかかる場合は開発は行いませんが、この緩和規定を活用してロードサイドにおける沿道サービス地としての土地利用を図ります。
V	自然環境	57	自然環境の項目に国が認めた室戸阿南国立公園の記載が何故ないのか不思議である。コンサルタントの勉強不足も有るかもしれないが、阿南市において一番自然環境の優れているのは室戸阿南海岸公園地域である。阿南市が全国や海外に知名度をアピールする方法の一つでNPO法人阿南未来創造社等の民間団体はインバウンド獲得のための国の施策に乗り国立公園を国立公園へ格上げする運動も始めている。阿南市も知名度向上と交流人口獲得のため積極的に国立公園化を基本目標に入れるべきである。	商工観光 労政課	室戸阿南海岸国立公園の国立公園への変更については、環境大臣の権限に属し、公園計画についても、環境大臣が関係都道府県等の意見を聴いて決定することになります。国立公園化には土地利用行為などに関する許認可手続きが煩雑になる等のデメリットも存在し、それらのことを踏まえ関係機関等との協議を行う必要があることから、国立公園化を前提とした基本目標の設定はしないこととします。
V	市街地整備 ・ 都市環境	59	市街地整備 ・ 都市景観の<基本的な方向性>は素晴らしいことを記載しているが基本目標の<主要な取組>が乏しすぎる。新庁舎に見合う阿南市の顔を駅前から作り直すくらいの計画や取組を記載すべきである。たとえば阿南駅から庁舎と線路沿いの三角形の地域を再開発し洪水の浸水高さまで地上げた公園や図書館、美術館、博物館、ショッピングセンターを作り地下駐車場を設けるような計画を行う時期である。那賀川の引き提が実現しない限り毎年浸水被害が発生する心配がある場所の計画については浸水被害を想定した計画でなければならない。市街地整備には若者が生活して快適に感じる外食飲食チェーンやショッピングセンターの誘致目標も必要である。	まちづくり推進課	阿南駅西側地域を中心とするエリアの活性化を図るため、平成30年度に「JR阿南駅周辺再整備基本計画(案)」を策定しました。計画では、駅前広場や駅周辺の骨格道路の整備のほか、周辺公共施設の再配置や、まちづくり組織の立ち上げの検討など、ソフト・ハードの施策を位置付けています。 若者が生活して快適に感じることができる市街地整備を行うためには、商業の活性化と併せて歩行者目線に立った道路等の基盤整備や公園・広場等の憩いの空間の創出など、歩いて楽しめる空間づくりが必要であると考えています。 阿南駅周辺地域の活性化に向けて、地域住民、地元商店街、民間企業等のご協力をいただきながらこれらの取り組みを進め、本市の玄関口に相応しい魅力ある駅前整備を行ってまいります。

V	市街地整備 ・ 都市景観	59	<p>文化的生活 知的教育施設の充実とインドアスポーツ施設の充実。阿南駅前に図書館や診療所を併設した、スポーツ複合施設によるまちづくりをお願いしたい。 子育て中の家族は良く図書館に行く、インドアスポーツ(フットサル・バドミントン・武道等)の祭典の場が無い、市民が集う駅前に再開発をお願いします。</p>	まちづくり 推進課	<p>平成30年度に策定した「JR阿南駅周辺再整備基本計画(案)」では、駅周辺の公共施設の再整備の検討について触れており、駅前に集客力のある公共施設や商業施設等が立地することは駅周辺地域や富岡商店街の賑わい創出につながり、市全体の活力向上が期待されます。 阿南図書館の整備については、施設の集約化、複合化も視野に入れ、最も効果的な活用策を市民の皆さまのご意見をお伺いしながら検討いたします。</p>
V	市街地整備 ・ 都市景観	59	<p>光のまち阿南 富岡商店街のシャッター0活動シャッターを撤去し木製格子に変更しLED照明を設置する助成金を、暗闇の商店街を光の街並みにリノベーションすることをお願いいたします。</p>	商工観光 労政課	<p>富岡商店街組合や所有者との協議も必要であり、今後の検討課題であると考えています。</p>
V	市街地整備 ・ 都市景観	62	<p>官民連携による図書館は、佐賀県武雄市の図書館が有名ですが、スターバックスと図書館があり市民より観光客が多くニュースになりました。カフェを併設し何度も行きたい、何時間も居たい空間づくりは、市民の憧れる図書館です。市民会館と図書館の複合施設をつくり、障害者の職場作りや学生の職場体験できるカフェやコインランドリー、コンビニを併設して欲しいです。普段出かけていなかった市民にも出かけるついでに立ち寄れる憩いの場所を提供出来るでしょう。しかし、武雄市図書館は葛谷図書館ともいわれ問題が起きたように、経営に重心をおくと、今の時代を把握して的確な資料を市民に提供し支援出来る司書が不在になり、サービスや蔵書自体に魅力が無くなり利用客が減り、投じた経費そのものが無駄になってしまいます。市民の役に立ち、また観光客も立ち寄る様な複合施設の整備を期待しています。</p>	図書館 (まちづくり 推進課協議)	
V	市街地整備 ・ 都市景観	62	<p>P34「生涯学習」、P59「市街地整備・都市景観」にある阿南図書館について意見をさせていただきます。 私にとって阿南図書館は最寄りの図書館ですので、本を借りるために頻繁に利用しております。その際、子ども向けの読み聞かせの案内を見かけますが、その以外に阿南図書館での催しはあるのでしょうか。最近、鳴門市立図書館の文学講座に2回、参加しました。学生の頃には興味がなかった古典の講座でしたが、初めて知ることばかりでとても楽しく拝聴させていただきました。近くの図書館でこのような催しがあれば、ぜひ、参加したいと思います。図書館にはいろいろな種類の本があります。それらと絡めて、文学に限らず、例えば折り紙や工作、法律、人権などさまざまな講座を開催していただけたらと思います。図書館は本を読むだけの場ではなく、本に興味を持てるように誰もが入りやすいところであって欲しいと願います。それに加え、紙媒体だけでなく、ケーブルテレビの番組が視聴できるスペースを設けるなど、情報発信基地として活用できるのではないかと思います。 また、近隣の商業施設で高校生が自習をしている姿をよく見かけますが、図書館を提供できないのでしょうか。図書館出入口付近では新聞を閲覧している方をよく見かけます。このように、「居場所づくり」も担えるのではないのでしょうか。最近は書店や図書館とカフェを併設しているところもあります。図書館を市民の憩いの場にいただき、そして、図書館に行けない人や目の不自由な人も、そうでない人と同じようなサービスを受けられることを希望します。生涯を通じて、豊かな暮らしを送るために、図書館の更なる充実を期待します。</p>	図書館 (まちづくり 推進課協議)	<p>本計画では、「市街地整備・都市景観」分野において「官民連携による市街地整備の推進」を基本目標とし、その取組みの一つとして「官民連携による図書館等の公共施設の整備」を挙げています。 現状における課題として、図書館については地域活性化の拠点となるべく、整備に向けて官民の協力が必要であることを認識した上で、まちづくりについて多様な立場の方々が意見を交わす場を開催し、図書館を含めた複合施設の整備、集約化について議論を深めていくこととしております。 また、阿南市立地適正化計画においては、阿南駅周辺地域を本市全体の活力をけん引する「都市拠点」に位置づけし、高次の商業・業務などの都市機能を誘導することを方針としており、図書館も維持・拡充型の誘導施設と定めています。 パブリックコメントでは、図書館にカフェや子育て施設等を併設した「憩いの場」「交流の場」としての空間づくりのご意見をたくさんいただきました。これらのご意見を踏まえ、官民連携による魅力ある図書館整備を検討し、駅西側地区を含めた周辺地域の賑わい創出につなげてまいります。</p>

V	市街地整備 ・ 都市景観	62	<p>「官民連携による図書館等の公共施設の整備」について 新しい文化施設の試みとして、駅前に賑わいを取り戻すためにも、コミュニティの場となるような、親子で一緒に過ごせる場所がほしい。ギャラリー的なものと、児童書を中心に置いた図書館的なもの。その2つに加え、人が集まりやすいカフェを併設すること。新設のためには、敷居の低い文化施設、市民が身構えずに、自由で気兼ねない場所の提供を望む。そのためにも、美術館と図書館が一緒にスペースであったり、そこにはゾーニングとしての場がこれからは大切だと思います。案として</p> <p>①建物のデザインが素敵で1階にはカフェがある ②雑誌やデザイン系の本、子供用絵本など色々あって、ゆっくり時間を過ごせる ③屋上やテラスには土が盛られ、芝生があり、植物が植えられているなど。</p>	図書館 (まちづくり 推進課協議)	
V	市街地整備 ・ 都市景観	62	<p>現在の阿南図書館は中央館としての役割を果たし、図書館利用率の高い周辺にありながら、施設の老朽化が進み、耐震基準が満たされていない、バリアフリー化にも対応できていない状況であることは数年来気がかりでした。 公共図書館としての単館図書館改築を希望する声や市民会館との複合施設への改築かとの話も浮上していましたが、今回の計画案により「まちづくり」に位置付けた図書館整備との方向性が示されていることを知り、意見述べた思います。 図書館は最も幅広い市民に利用される公共施設・文化施設です。インターネットが普及した時代に情報を得るだけであれば、大きな施設は必要ないと思われがちですが、そうした時代だからこそ、市民が実際に足を運び、思い思いに過ごすことができる空間としての図書館の意味はかえって重要です。人口減少から導かれる縮小社会が課題となる中で、人と情報が交わる空間としての図書館の可能性は大きく、そのような公共施設・文化施設としての図書館が、市民活動の可視化に十分貢献できる環境づくりが、今後必要です。 また、施設の複合化は全国的な流れといえます。ぜひ図書館の整備を進めていただき、日常の動線上にあり、大型商業施設や広域 性・集客性の高い施設の立地誘導、子育て支援施設等の誘導による、子育て世代の流入増を目指したまちづくりの拠点の形成による魅力あるまちづくりの推進を希望します。 「文化・子育て・教育・商業・公共公益的な施設等が複合した施設の整備」、公共的な社会教育の場、無料で使うことができる活気ある「コミュニティ型図書館」が求められます。 図書館・郷土資料館・カフェ・子育て支援施設・高齢者交流スペースなど医療・福祉・子育てにおける相談や集いの場を提供する等、これまで単体で活動していた各部署が連携し、企画やサービスの提供等を融合し、市民の利便性を高めることで、市全体の魅力向上に繋がるのではと考えます。</p>	図書館 (まちづくり 推進課協議)	
V	市街地整備 ・ 都市景観	62	<p>市街地整備・都市景観について 現状と課題で、「阿南図書館、市民会館は耐震性が不足しており、早急に対策を検討する必要があります」とありますが、現在は市民会館は使用を休止し、阿南図書館は来年度より書庫として利用して、市役所にて貸し出し予約受付、返却カウンターの設置が決定されています。 市民会館は、夢ホールやコスモホールとは収容人数が大きく異なり、これではコロナ禍において市民が密を避けて優れた舞台芸術鑑賞する機会をつくるのが難しくなっています。また、市民に広くその場を提供し地域文化の振興発展させる機会もなくなっています。 コロナ禍において市立3図書館は来館数が減っておりますが、6、70代の男性は変わらず来館しているようで、気軽に多くの人が集まることのできる地域の拠点施設として機能しています。市内に3館も要らないとの考えは間違いで、市民が本や情報や人との出会いによって知見を深める場所は身近にあってこそ機能するものであり、この3館あるということこそが、市民の文化の向上と社会福祉の増進に重心を置いた街づくりをしてきた市民の誇りだと思います。公共施設の統合・整理を検討する前に、攻めた改革を期待しています。</p>	図書館 (まちづくり 推進課協議)	
V	市街地整備 ・ 都市景観	59	<p>阿南駅周辺をウォーキングしていますが、空き店舗がたくさんあり、残念ながら、冷たい感じがします。駅から牛岐城址公園にかけて並木道にして欲しいと思います。道路の幅が狭いので難しいのですが、コンクリートばかりでは色がなくて、寂しいです。吊り鉢に花を飾るとか建物に色を付けるとか、統一した景観にできないのでしょうか。</p>	まちづくり 推進課	<p>「JR阿南駅周辺再整備基本計画(案)」では、「都市的環境に優れたまちづくり」を基本方針に掲げており、市役所周辺からJR阿南駅まで歩いて楽しめる空間づくりを基本方針としています。 具体的には、公園・緑・歩行者に優しい道路整備、景観づくりを一体的に行い、景観に配慮した美しい魅力あるまちづくりを行うこととしています。</p>

V	道路・交通	61	高速道路を活かしたまちづくり。高速道路と国道55線を結ぶ東西幹線道路として、旧国道の4車線化のほか接続道路計画を基本計画に取り入れる。	特定事業 推進課	四国横断自動車道や阿南安芸自動車道と一般国道55号阿南道路を結ぶ幹線道路は、重要路線であると認識しており、阿南IC関連道路の整備事業と位置づけ、県道拡幅などの事業化されている路線の早期整備に向け、関係機関へ引き続き要望してまいります。
V	道路・交通	61	道路・交通 基本目標1 新規路線の整備による交通ネットワークの充実について、一番早く行うべき場所は庁舎前の5差路交差点である。混雑している時間も車が一台も通らない時間も長い時間を待たなければならない。全ての阿南市民が確実に利用する交差点であり一番ストレスを感じる交差点である。桑野川への道路改修の計画も承認されているようであるが混雑やストレスの解決にはならない。阿波銀行が改築するに伴い5差路交差点を回転式の無新号の交差点に作り替えることを提案する。全国的に回転式の交差点は少なく道交法の改正に伴い、これからは増えてくるが、いち早く取り入れて凱旋門のように、阿南市の顔となったら交流人口も阿南市の人も上がると予測でき、我々のストレスもなくなる。 <主要な取組>に東西幹線道路推進の記載があるが田宮街道のように新たに道路を計画するのか旧国道を4車線化に拡幅するのが取組として明確に記載するべきである。市民はどのように幹線道路を推進するのが分からなければ困惑する。	土木課	市道交差点の改良につきましては、基本計画における基本政策V≫4道路・交通≫基本目標1≫「市道の新規路線の整備を推進」の中に位置づけております。 回転式交差点（ラウンドアバウト）につきましては、通過時間の短縮、車両及び歩行者の安全性向上、災害適応性、ランドマーク形成等、適所導入によるメリットが提唱されております。しかし、日本ではまだ馴染みのない方式であり、条件次第では有効に機能しない可能性もあるため、市庁舎前の五差路が導入に適しているかどうかは、県道管理者、県公安委員会等との協議により、慎重に判断する必要があります。
V	道路・交通	62	道路・交通 基本目標3 地域公共交通の核となるバス路線の及び離島航路の確保・維持・持続性のある地域公共交通の確保維持の市内支線バス路線の年間実車走行距離数の目標値が減っているが、阿南市がお年寄りに格安タクシー券を配るとか説明が必要である。高齢化に伴い運転免許証を返納する運動が進んでいて高齢者は交通手段がない。支援バスの走行距離を増やすべきである。もしくは代替案を提示するべきである。	ふるさと 未来課	【反映する】 基本目標3 地域公共交通の核となるバス路線及び離島航路の確保・維持 <主要な取組>に次の取組を追加し、地域の皆さんと協働しながら庁内横断的に取り組んでまいります。 「地域公共交通の利用促進」 「地域二ーズに即した新たな移動モデルの構築」
V	公園・緑化	63	公園・緑化 基本目標1 市街地部等における公園の整備の牛岐城趾公園の整備について、同公園は庁舎近くに隣接し庁舎の庭園としての機能を果たすべき公園と位置づけて整備するべきである。	公園緑地課	現在、牛岐城趾館（文化振興課所管）、常設LEDドーム（商工観光労政課所管）があり、今後も横断的に各課との協議、また市民からの声（ご意見・ご要望）等を検討し、牛岐城趾公園整備に係る日亜化学工業基金を活用しながら、都市公園の一つとして整備を進めております。 令和2年度においては、公園内の全ての照明設備をLED化したところです。
V	住環境	67	人口増加を目指す施策（若者住宅団地等）を総合計画に取り入れる。 児童の減少が著しく、住宅地の無い富岡小学校周辺区域に若者住宅団地を建設する。		
V	住環境	67	30年後を見据えた上下水道の整備された住宅団地を建設		

V	住環境	67	住環境について記載があるが、市長の公約の若者住宅団地の計画がない。若者住宅団地は阿南商工会議所が何年も前から何度も阿南市に「商工会議所としての意見を公表し、これを国会、行政庁等に具申し、又は建議すること。」をしている。若者住宅団地を新設すると若者の定住が促進されて、人口が増加するのは明白である。また、市長の選挙公約が計画にないとは如何なものか大きな問題である。計画を立てても実現できない可能性はあるかもしれないが、計画として入れるべきである。場所については、阿南市で最も子供が減少している富岡小学校校区に計画するべきである。本来なら市の人口が減少しているのに小学校の増築など行わないでバランスよく市民を住まわすことも行政の仕事である。	住宅課	住宅政策の総合的推進と併せて調査・研究を行ってまいります。
V	住環境	68	住環境について記載があるが、公営住宅のみの施策で一般の住宅についての記載がない。一般の住宅の心配をしなければ全ての市民が公営住宅に入居する事態が起こる。なぜなら、建設産業が疲弊し職人がいなくなり一般住宅の補修が出来なくなると、一般住宅に住めなくなるからである。そうなれば莫大な支出が必要になる。そうならないように民間が民間の力で住宅を確保できるように何らかの施策を打つ必要がある。発注しているコンサルに提案する能力がなければ地域の建設産業と連携し施策を見つけていかなければならない。すでに公共が住まいの世話をする所も出てきている。衣食住の衣食は輸入できるが住については出来ないし、現場に作業員が必要であり各市町村が対応しなければならない。	企画政策課 (建設部長協議)	作業員の不足は、建築業界だけでなく、建設業界全体で、特に若者層の建設在職者が減少し、職人離れが激化しており、「工事現場で稼働する職人」「職人をマネージメントする技術者」どちらも足りていない状況があり、民間の建設業者はこれまで、「福利厚生サービスの導入などによる待遇改善」「省力化工の積極的な導入による省工数化」など、様々な取組を行っております。それらの取組効果は徐々に表れていると思いますが、人手不足は非常に深刻な状況にあると認識しております。これからは、新たな取組として例えば「建設業界と工業高校等が連携した技術体験研修の実施」「助成制度を活用した高校生等の教育訓練センターへの派遣」「建設業協会と連携した生徒と保護者の現場見学会」など、産官学民が連携していく必要があると考えており、本市も新たな取組の一員として協力したいと考えております。
VI	シティプロモーション	75	<基本的な方向性>に室戸阿南海岸国定公園の記載がない。若杉山遺跡より先に国に認められた場所なので記載すべきである。(コンサルの能力を疑う)室戸阿南海岸国定公園には室戸ジオパークが有り世界的に有名である。個々の市町村が個別に頑張っても知名度は上がらないし魅力も出ない。室戸阿南海岸地域を6市町村が一つになってアピールして行く事が、シティプロモーションにつながるのである。室戸阿南海岸国定公園が国立公園になると世界的にも知名度が上がる。そのような方向性を持つべきで、そうなればこの地域の中心地の阿南市は世界的に有名になる。有名になれば確実に人口の安定と繁栄が伴い、室戸市、東洋町、海陽町、牟岐町、美波町も元気になり阿南市のより一層の繁栄を生むことになる。その為の基本目標を立てるべきである。	商工観光 労政課	<p>【反映する】</p> <p>シティプロモーション (P74) <基本的な方向性>を次のとおり修正します。</p> <p>本市は四国最東端に位置し、海→山→川室戸阿南海岸国定公園等の自然に恵まれ、若杉山遺跡や阿波水軍などの由緒ある史跡と四国遍路のお接待文化が息づく一方で、LEDの世界的シェアを誇る地場企業があるなど、豊かな自然と文化、産業が鮮やかに調和したまちでもあります。さらに、本市の魅力を全国に向けて発信し、広く認知してもらう取組を推進します。併せて、「野球のまち阿南」として、官民が一体となり野球というスポーツを産業資本と位置づけた取組も推進します。</p> <p>室戸阿南海岸国定公園の国立公園への変更については、環境大臣の権限に属し、公園計画についても、環境大臣が関係都道府県等の意見を聴いて決定することになります。国立公園化には土地利用行為などに関する許認可手続きが煩雑になる等のデメリットも存在し、それらのことを踏まえ関係機関等との協議を行う必要があることから、国立公園化を前提とした基本目標の設定はしないこととします。</p>
VI	市民参画	76	市民参画で意見交換を行い、意見を聞いてもほとんどが出来ないと返事されている現状がある。まずは意見を聞き試してみる姿勢が必要であり、公務員の見識や前例で判断するべきではない。それが市民参画の基本である。市民の意見を聞いて行った事業については責任は公務員ではなく市民にある。公務員は官僚(法を作る)ではなく市民の世話人であるからだ。	秘書広報課	市民との意見交換の一つに「出前市長」がございいますが、出前市長は将来の「阿南市のあるべき姿」や「まちづくり」についてご意見・ご提言を頂いており、可能な限り本市の総合計画をはじめとした各種計画に反映させていくことを目的としています。また、他の意見交換の場においても様々なご意見を頂いておりますが、ご意見の中には法令上もしくは財政上困難な場合や他にも多くの課題が生じる場合があり、全ての声に応えられるわけではありませんが、伺った意見については各担当課で慎重に精査を行っております。

VI	行財政運営	79	<p>行財政運営について<基本的な方向性>で集金の方法が「適正で確実な自主財源の確保にも努めます。」といかにも消極的である。民間では1、2年で倒産します。財源確保の方法として確実なことは支出先を全て阿南市内の企業にすれば回り回って税金で戻ってきます。また阿南市民が貯蓄します。全ての資金は阿南市のものになります。日亜化学のように外貨を稼いでくる企業が有る市町村は運営を間違わなければ全てのお金が阿南市にたまります。阿南市の財政と市民の貯蓄はある意味一体であり、阿南市の財政志向が阿南市の将来を決定づけると言っても過言ではない。中小企業振興基本条例やエコミックガーデニングを実践し、日亜化学工業のような企業に頼らなくても行っている市町村もあり、阿南市は日亜化学工業があるので日本一の市町村になれる可能性を持っている。阿南市の財政は使うことを渋るより、使う相手を市内業者にすることが重要でいろんな方法を駆使して市内業者に発注する事を主要な取組にするべきである。</p>	<p>財政課 総務課</p>	<p>市における調達、その財源が税金によって賄われるものであるため、より良いもの、より安いものを調達するという原則がありますが、同時に地域活性化の観点からは、地元企業が受注し地域経済に貢献することも求められており、競争性、透明性、経済性等に配慮しながら、調達を行っていきたいと考えております。</p>
VI	広域連携	81	<p>広域連携について具体的な政策を立てて進めるべきである。阿南市が他の地域の発展に寄与しなければ、県南3町は存続が危ぶまれると予測できる。存続できなくなると阿南市に合併するよう指導され3町を含めた広域を日亜化学等の法人税で賄うことも不可能になり、阿南市も雪崩的に倒れていく恐れがあります。その為にもNPO法人阿南未来創造社が開催しているウルトラマラソンのような広域のイベントなどの取組が必要である。また、室戸阿南海岸国定公園を国立公園へと格上げする運動のイニシアチブを取ることも重要で、県を跨いで室戸市までの地域を包括的に一つにまとめリードして行くことが最も重要である。</p>	<p>企画政策課</p>	<p>本市は、定住自立圏構想推進要綱に基づく中心市宣言を行い、その宣言に賛同した那賀町、美波町、牟岐町及び海陽町と相互に連携し、「生活機能の強化」「結びつきネットワーク強化」及び「圏域マネージメント能力強化」の3つの政策分野を重点推進項目として取り組んでおります。 総合計画では、「定住自立圏共生ビジョン取組事業の推進」を基本計画の主要な取組としており、具体的な政策立案については、その中で県南4町と協議しながら定め、必要に応じて見直しを行っております。 また、室戸阿南海岸国定公園の国立公園への変更については、環境大臣の権限に属し、公園計画についても、環境大臣が関係都道府県等の意見を聴いて決定することになりますので、それらのことを踏まえ対応したいと考えています。</p>
SDGs	SDGs	88・89	<p>阿南市総合計画2021▶2028とSDGs（持続可能な開発目標）の一体的な推進について、「本総合計画の各施策分野にSDGsの目指す17のゴールを関連付けることで、SDGsを一体的に推進します。」であるなら17ゴールの関係の表の全ての枠に丸印を入れるべきである。</p>	<p>企画政策課</p>	<p>SDGsについては、施策分野に適したゴールを関連付けることにより、17のゴール全てが総合計画基本計画の施策分野のいずれかに関連付いております。</p>
		全体	<p>総合計画基本計画案全体について 総合計画基本計画案を読みました。全体的には「総花的」であり、阿南市が目指すべきまちづくりの方向性の具体的な戦略が見えにくい、又は「金太郎あめ」的だと感じました。全国、どこの町の総合計画にもあるような内容だと思います。阿南市らしさを読み手や特に若い人、小学生でも「阿南市はこんな町」と誇れる内容に仕上げたいと思います。</p>	<p>企画政策課</p>	<p>総合計画基本計画の内容について「総花的」との御意見でございますが、まちづくり分野ごとにビジョンを定め、施策を展開することによって、2028年の都市像「多様な産業が咲き誇る 生涯チャレンジ都市 阿南」の実現を目指したいと考えています。また、読み手や若い人、小学生へのアピールについては、製本時の体裁やダイジェスト版により対応したいと考えています。</p>
		全体	<p>各事業ごとに目標設定が記載されていますが、いずれの目標値も月並みな設定だと思います。より野心的な目標設定を掲げて市役所挙げて取り組むことが重要だと思います。</p>	<p>企画政策課</p>	<p>目標値については、過去からの傾向や他市等の情報なども参考としながら、高すぎたり、低すぎることなく、施策の手段である事業の努力によって達成可能な値としており、その上で政策的な判断も加味しながら設定しております。</p>

		全体	<p>今回の計画案について、なんら不満、反対意見はありません 大変よく考えられていると思います。 ただ一点、これだけのことをしてゆけば（これから考える内容次第ですが）人口は増えると感じました。日本全国の地方では減る方向ですが、阿南市では思い切って増えるいや、増やす方向で自信を持って計画してほしいです。 コンパクトシティとは、もともとているのではなく、増えても余計なインフラ整備が最小限で済み維持管理もしやすいというのが基本です。人口減少の一方で、政策がうまくいき増加したとしても対応できる街づくりを考えていってはどうでしょうか？ 人口減少で維持してゆくには工業（もともとそうですが）をもっと呼び込みその他の産業も呼びこむことです。 内需拡大できないなら外から呼び込むことしかないですよ。 徳島市はよく知っていて2000人規模のホールとアミコの拡大をしようとしています。どうやっても阿南に来る、来てしまう街づくり考えてください。 これだけの基本計画が実現できればそのあたりは簡単だと思います。増えなくても誰も文句いわないでしょ。 しかし、人口減少で維持してゆこうと思えば外貨獲得が一番の方法だとおもいます。 この基本計画の細かな内容は今後お考えていかれるのでしょうか、是非に頑張ってください 以前、会議所で初めて聞いたときは?????でしたが、今回心配ないと思いました。 今度は、楽しみにしています。以上です。</p>	企画政策課	<p>人口増加を目指した計画策定の御意見をいただきました。 本市の人口減少に対する考え方については、人口減少を抑制する観点と人口減少に備える観点を両輪で考えております。人口減少抑制策では、御意見のとおり産業を呼び込むことが重要であると考えており、工業のビジョンに「産業振興で活力あるまちづくり」を掲げ、企業誘致の推進を主要な取組としております。</p> <p>また、「どうやっても阿南に来る、来てしまうまちづくりを考える」との御意見ですが、徳島市のホールや商業施設等の整備については、県南1市4町の約9万人の人口規模を勘案する必要があり、集客数の観点から難しいと考えられますので、地域資源を生かした関係人口の創出・拡大による持続可能なまちづくりを推進することにより、新たな人の流れを創出したいと考えております</p>
		全体	基本構想から見直し、基本計画も再度見直しが必要です。	企画政策課	御意見の内容を踏まえ、市民の皆様の御意見を取り入れながら策定してまいります。
	基本構想		<p>将来の阿南市のあるべき姿について積極的に計画する。 四国でも有数の財政力を有する市町村として将来あるべき理想の姿を計画する。</p>	企画政策課	<p>地方公共団体の財政力を示す財政力指数は、令和2年度の徳島市の0.817に対して阿南市は0.829となっており、財政力指数は高い方と言えます。財政力指数は1を下回る場合、標準的な税収が不足することとなり、不足分が地方交付税として国から交付されることとなります。 阿南市は、一市二町の合併から15年が経過し、普通交付税の合併算定替え特例措置期間の終了に加え、法人税割の縮小に伴う法人市民税の減収等により、平成30年度と令和3年度見込みの歳入を比較すると約3億5千万円減少すると見込まれており、厳しい財政事情がございます。また、人口減少についても2060年には約3万8千人近くまで減少することが予測されています。 総合計画では、このような現状を踏まえバックカスティング思考により、2060年への道標として「人口減少問題に立ち向かい“豊かでキラリと輝くまちへ”を掲げ、これからの8年間をどう進めるのかの観点で、総合計画を策定しております。総合計画の2028の都市像「多様な産業が咲き誇る 生涯チャレンジ都市 阿南」を実現するための施策を束ねた基本計画となることを念頭に策定しております。</p>